

平成 27 年度山形大学機器・分析技術研究会 参加報告

野田 浩平 電気電子・情報技術分野

河原 夏江 化学・生物技術分野

1. はじめに

山形大学機器・分析技術研究会が平成 27 年 9 月 10、11 日の 2 日間の日程で開催された。機器・分析技術研究会は全国の大学が持ち回りで開催しており、機器・分析装置に関連した技術習得や技術研鑽を目的として開催されている。今回は台風 18 号による豪雨の影響で参加予定者 168 名のうち 36 名が参加できないという事態となった。尚、本学からは山田、河原、高柳、野田の 4 名が参加した。

2. 研修内容

開会式の後、「有機エレクトロニクスで地域創生」の記念講演で、山形大学、城戸淳二先生が取り組まれている有機 EL を用いた地域貢献や地域産業の発展について話を聞くことができた(図 1)。地域の活性化の手法として企業誘致等の選択肢が存在するが、三重県の亀山を実例にあげて企業誘致での地域活性化が難しいこと、そして工業の活性化には大学の研究を活かしてベンチャーを生み出す必要があると説明があった。その後、具体的に現在城戸先生が実践されている地域産

業との連携についての説明があった。その中で理想的な地域活性化産官学連携に関する話があり、大学で基礎研究を実施し、地方自治体研究開発センターにて実用化研究、それら実用の目処が立ったら地域の企業にて実際の製造や販売を実施する。これらの話は本学の産官学連携の考え方と一致する部分があり、大変参考になった。現在、技術支援センターでも社会貢献活動として種々の活動を実施しているが、もっとできることはないか考えさせられる機会となった。その後、各大学や高専の技術職員によるポスター及び口頭発表があり、各大学における技術職員の職務内容、社会貢献活動や機器・分析装置に関する実践的なスキルについて発表を聴くことができた(図 2)。

3. おわりに

各大学の研究や社会貢献活動への技術職員の関わり方について知ることができ大変有意義な大会であった。今回得た知識や考え方を現在の業務の改善や、今後新たな社会貢献活動を実施することに生かしたい。



図 1 記念講演の様子

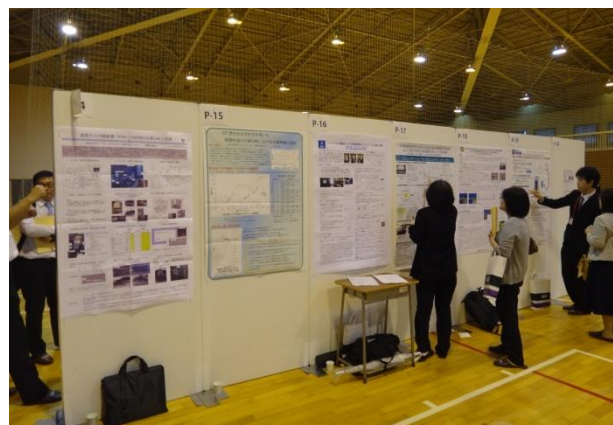


図 2 ポスター発表の様子